

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第6回武蔵村山市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成20年1月29日（火） 14時00分 ~ 16時00分
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：除本理史、片山務、鈴木寿子、藤居真洋、樋口豊子、比留間勉 渡邊順子 欠席者：菊地茂、小林なほみ、荒幡耕司
議 題	1 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画の改訂について 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1について： 継続して議論する 議題2について： なし
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	<p>会 長            始めに、議事録の確認をお願いします。全文公開対象になるということですから、ご了解をお願いします。訂正すべき点がありましたら、会議終了までをお願いいたします。</p> <p>                  では、基本計画の改訂についてを議題といたします。</p> <p>事務局            配付した資料の中で、一部訂正箇所がございますので、資料3、4につきまして、差し替えさせていただきたいと思います。</p> <p>会 長            本日は、答申の内容を具体化していくことにしまして、年度当初になるべく答申したいと考えています。</p> <p>                  答申の、主要な部分になる目標値の議論をしたいと思います。審議会資料3が配布されています、これは、市として定める基本計画の内容でして、これ自体が審議会の答申にはなりませんのでご了解をお願いします。今日議論するのは、41ページのところになります。</p>

	<p>目標値のところは、数字がゼロになっています。次回には、ここに目標値を入れて、審議会の答申の体裁を作ったものを答申（案）として出していただくよう、事務局にはお願いします。</p> <p>前回、副会長から出された、最終処分場からの要請等があるのではということで、その内容についてまとめたものが、資料1として出されています。資料2は、計画の目標値の相互関係についてです。これについては議論の中で、使っていくこととなります。資料4については、市報原稿（案）が出されています。これはここで議論するのですか。</p> <p>これは、このような手法で市民周知するという報告と受け取ってよろしいですか。</p>
事務局	はい。
会 長	市民向けに、コメントを寄せてくださいということですね。 数値目標の議論をした場合、取扱はどうなりますか。
事務局	数値を示していただければ、数値を入れたものを提示したいと考えています。
会 長	了解しました。 では、資料1の説明をお願いします。
事務局	資料1の説明を行う。
会 長	ご質問はございませんか。
委 員	不燃物は容量で見ているのですか。市から出されているデータは重量で出されています。重量を容量に直す計算式があると思います。それはどのようなになっていますか。
事務局	不燃物の、分析に基づき体積換算係数を定め、その係数を乗して算出しています。
会 長	体積換算係数とは、何なのですか。
事務局	重量に、係数を乗して容量を出す計算式です。tに対してm <sup>3</sup> を出す計算

	<p>式です。20年度、本市は220 m<sup>3</sup>の配分量に対し現在41 tで係数を乗しますと57 m<sup>3</sup>となります。</p>
委員	<p>普通、重量よりも容量のほうが上回るのではないですか。</p>
事務局	<p>ですから、重量に係数を乗しているのです。重さに対して係数を乗したものです。</p> <p>全体を見ますと、不燃物は配分量に対して下回っていますが、焼却残渣は上回っています。</p> <p>焼却残渣は、18年度実績で2,010 tです。</p> <p>実績は2,010 tで配分量は1,510 tで、焼却残渣は上回っています。</p>
委員	<p>41ページの数値を見えています。18年度の処分量2,051 tとなっています。</p>
事務局	<p>この数値は、焼却残渣・不燃物を合わせた重量です。</p>
会長	<p>今聞いた、2,010 tと41 tを足した数値ですね。</p>
事務局	<p>これが実績で、組合からの配分量を上回っているということです。</p>
会長	<p>単純に、221を1.4で除してください。</p>
事務局	<p>157.8です。</p>
会長	<p>これによりますと、次年度の配分量だけしか決められていないのですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
会長	<p>重要なのは、原単位の決め方です。原単位は翌年度の分しか示されないことです。減溶化計画は、22年度までで、それまでの間処分場の容量の半分以下までにしましょうということです。</p> <p>実際、搬入量が多い市があった場合、原単位が厳しくなるということですか。</p>

委員	普通は、何年か先を想定し、容量等を定めるのではないのでしょうか。毎年度、変わるのでしょうか。
事務局	毎年度、容量が決められています。
委員	そうしますと、本市は搬入配分量を上回っているのですね。配分量がゆるくなることはないかと仮定すると、現状の実績をかなり下回らないと対応出来ませんね。
会長	平成20年度の、搬入配分量を基に、最終処分量をイコールにするならば1,718t程度になり、現在の数値はかなり上回ります。この数値は、毎年度厳しくなっているのですか。
事務局	手元に資料がございませんので確認出来ません。
会長	少なくとも、概ね最終処分量は1,700t程度に抑えなければなりません。これは、組合が求めている数値です。これは、数字としての根拠があるものです。
委員	現在の実績のままでいくと、数年先にごみ量がどの程度になるか計算していました。その数値と、最終処分量はどの程度になりますか。
事務局	その数値は出しておりません。市民の努力や処理施設の関係で、処分量に各団体で差が出てきます。
委員	それは別として、このままで推移するとこれだけ上回るとの見通しです。
事務局	残渣やごみと言う部分になると、全部市民に係るわけではなくわけではないと説明したいのです。
委員	減らすために、次は何をしなくてはいけないのか、その議論に続くのです。今、焼却炉を直ぐに建て替えるのは無理なのでしょう。
事務局	平成33年に、新しくする構想があります。

委員	出来ること、出来ないことを話し合わなければならないと考えます。
事務局	中間処理施設に搬入する量で、最終処分量も概ね決まってくる。その他、炉の性能によっても、他の自治体との差も出るということです。
委員	受け入れる側での考えはどのようなのですか。
事務局	処理する以前の段階での、数値を示していただければと思います。
会長	現状、2,000tとして1,700tまで減らすということは15%の減となります。人口の増加を考えますと、もっと減らさなければなりません。リサイクル率を上げた場合どうなるか。計算していただきたいと思えます。 最終処分量の削減目標は、1,700t程度まで下げると組合の要請に合うということです。発生抑制目標から、詰めてみるとどうなるか。
事務局	仮定としまして、現在の目標値の排出物原単位をクリアーした場合、最終処分量は、1,700t程度に落ち着きます。リサイクル率は、40%と仮定しました。 以前示しました、最高リサイクル率をクリアーすることは無理として、40%と仮定し、排出抑制で排出物原単位を850gとした予測です。 中間処理施設の、処理能力は変わらないと仮定しています。
会長	持込ごみ量を入っていますか。
事務局	衛生組合搬入量を基にしていますから、それも考慮しています。
会長	数的に、考慮していますか。
事務局	全体ですから、持込量だけを考慮した数値ではありません。
会長	持込ごみ量は、現状との関係で減らしているのですか。
事務局	ごみ総排出量から、排出物原単位は決まりますので、同様の割合で持込ごみ量も減らした数値になります。

会 長	今の、計画の目標値を使ったのですか。
事務局	はい。
委 員	現状のままで推移した場合の、ごみ量推計は出ているのですね。 処分場が示している、数値も出ている。 そうしますと、毎年どの程度上回るかすぐに分かるのでは。
事務局	このままで、推移すると仮定した場合、平成29年度のごみ総量は24、525tとなると推定しています。これは、前回配付しました資料でお示しいたしております。 この数値は、1人当たりの排出量は現状のままで、人口の伸びだけを考慮した数値です。
委 員	まず、どの程度減らすのか、そのためには何をするのか、その議論をしなければならぬのです。
会 長	今の意見は、排出物原単位等の目標値を設定する部分のところの、トレンドを予想して10年後の数値を出してもらえないかということです。 今、市が予想しているのは、人口変動だけを加味したもので、原単位に関しては現状のものを使っています。
委 員	それはそれで出してみても、要請をオーバーした数値が出て、それを減少させるために、何を減らすのか、原単位をどの程度にするか、そのためにはどのような政策を行うのか、そういう話なのですが。
会 長	数字の相互連関は、人口のトレンドを前提として、原単位を減らしリサイクル率を上げるしかないのです。 この二つの数値を、良い方向に持っていくほか方法はありません。トレンドを出すのは、現在の原単位のまま出来ると思います。トレンドを延長するとどうなるか、数年の伸び率の延長で推計してください。 前提として、答申の中に入れるべきごみ量の予測は、もっと厳しいものになります。これは原単位を一定にして、最終処分量まで出すとすると、今のトレンドを延長して、排出量等の数字を出す必要があります。 つまり、前回出された見込みの予測の仕方が、非常に甘いとのこと指摘です。

委員	今のままですとこのようになると示されたと思います。それは良いのですが、実際に求められているのは、もっとこれ以上に求められた数値になるということです。
会長	現状だけでなく、トレンドを延長した数値が見たいですね。原単位・リサイクル率がです。 今の、基本計画の目標の数値を使い、1,700t程度になる話でしたが、目標値の内リサイクル率を40%にした場合に、最終処分量が求められている数値に近くなることです。
事務局	排出物原単位の目標値を達成し、更にリサイクル率を高めた場合、最終処分量が求められている、数値に近づくとのことです。 人口増加分も考慮しております。
会長	組成分析の結果で出た、50%を越えるリサイクル率が可能とのことを基に40%程度とすると、最終処分場から求められた数値に近づくとのことです。 そうすると、原単位を今以上にしなくても、求められた数値に届くそうです。他に、排出物原単位を厳しく設定したり出来るわけです。平成18年度の原単位924gですが目標は850gです。1割は削減する必要があるわけです。
委員	1割削減は、大変な努力が必要になります。
会長	排出物原単位は924gの現状に対し、目標は850gです。 今、試算に使った850gは、現状に対し1割ほどの削減が必要になります。10年先を見越すことですが、1年に1%ずつ減らしていけば可能な数値なのですが。
委員	他の自治体で、このくらいの数値を達成しているのので、この数値が出されているのでは。
会長	ごみは、減っているのですか。
事務局	減っています。しかし、その要因は判明していません。

委員	景気の減退によるのでしょうか。
会長	今の、トレンドを延長する限り、原単位が増えることはないですね。
委員	不燃物は、すごく減っています。
委員	東大和市は、一部地域だけ容器包装類の分別収集で、他の地域は不燃ごみ扱いになっています。ただ、ペットボトルだけは別に出す方法です。
事務局	本市は、収集後に手選別で仕分けしています。
委員	東大和市は、公共施設に何時でも捨てられる、収集ボックスが設置されています。
委員	武蔵村山市も同様ですよ。 地区会館・緑が丘出張所にも設置してあります。
会長	委員がおっしゃったのは、リサイクルに関する意見です。今まで、不燃ごみで出されていたものが、資源として出されているということです。
会長	事務局から伝えられたのは、ごみ総量が減っていることです。
事務局	総排出量が減っています。徐々にですが減少しています。
委員	粗大ごみも含めて減っているのですか。
事務局	はい。排出物原単位で減少しています。 平成15年度から徐々に減少し、19年度はその幅が大きくなりました。
会長	そのトレンドを延長すると、10年後には、850gになったりしませんか。
事務局	もっと下がるかもしれません。現在、直近の原単位は880gほどで、19年12月の実績です。
会長	年末の、消費が活発な時期に下がったのですか。



	これは、850gも夢ではないのでは。
事務局	原因を考えていますが不明です。
委員	雨が少なかったんでしょうか。
事務局	水分は、重要な要素ですが。天候まで調べておりません。
委員	100gは、卵2個分です。このような例を挙げごみ減量に向け、周知する方法もあります。
委員	その、アピール方法等をここで考えるのかと思っていました。でも、その前の難しい問題が殆どなので、イメージが違うのですが。
会長	話し合っていけないことはないのですが、目標値を定めないと、何を行わなければいけないかとの議論にならないのです。
委員	では、目標値を出してしましましょう。
会長	ですから、今その議論をしているのです。 今日、目標値を出し、次回に個別の施策の議論をしたかったのです。 以前、アイデアを出していただいて、議論したように答申には入れたいと考えています。
委員	以前の意見に対して、具体的に行う方向にはなっていません。
会長	ここは、提案することは出来ませんが、施策の実施は市の仕事でして、審議会の意見に基づき、市が予算化し政策を行うのです。 ここでの、議論の内容は答申に反映するよう事務局に伝えてあります。 次回の、(案)には具体的な内容を記述していただきます。
委員	処理施設の問題を抜かしても、100g程度は減量できると考えています。
会長	良く理解できます。小金井市などは、ごみ減量を盛んに訴えています、自分で統計を取っているわけではないですが、注意して暮らしていない

	と、すぐにごみが増えてしまいます。皆で、庭に埋めたりしています。
委員	目標値なんですけど、ここで決める前提として、数値を達成できる目標値でないといけないのかなと思います。
会長	事務局から聞いた話ですと、今のトレンドが続くと減少するようです。
委員	それは、今年の現象でこれが続くとは思われません。今年の、現象だけで考えては危険です。
事務局	15年度から、18年度の間に原単位が20g程度下がっています。
会長	3年間で、20g減っているのですか。そのトレンドを延長したら大分減りますよね。
事務局	粗大ごみは、平成17年度に有料化を行い排出量は減少いたしました。
委員	ごみ総量に比べ、粗大ごみは大きな割合ではないのでは。
会長	15年から18年のトレンドでは、4年間で20g減っているので10年で100gは無理ですか。 原単位は、減っているのですから、更に努力すれば十分ではないのでは。
事務局	可燃ごみだけ見ますと増えています。また、不燃ごみは減少しています。大きな要因は、不燃の減少と考えられます。
会長	それは、容器包装の部分なのでしょうか。レジ袋を使用しない、消費者行動が一般的になったからなのでしょうか。 不燃が減ったのは、不燃性資源も減ったのでしょうか。
事務局	不燃性資源は増えています。
会長	分別が進んだのでしょうか。 このまま、トレンドを延長できるとして、議論して良いかと言うことです。

事務局	民間の、回収業者の回収が多くなったのでしょうか。 無料回収と伝え、有料で回収している業者です。
会長	それが、それほど多いとは考えられません。 具体的には、何が原因なのでしょう。家の中には、100円ショップなどで買った物があります、具体的にはこのような物が不燃物です。 そのような物が減っているのでしょうか。
事務局	不燃の減少が600t、不燃性資源の増加が100t。それだけでは説明できないのです。
会長	これは、調べる価値があります。次回まで、調査していただけますか。 それが、無理ではなかったら、そのトレンドを延長して、少なくとも50g程度は10年間で減少するのでは。 そうしますと、850gまでは行きませんが、870gまではトレンドの延長で行けるのでは。そうしますと、850gは無理な数値ではなくなります。
委員	収集ごみの原単位が減れば良いのでは。
会長	原単位・収集原単位のどちらを使うか、事前に事務局と相談しております。計画の求められている数値は、排出物原単位と言うことで。
事務局	総ごみ量が最大の課題です。
会長	総排出量を抑えるということだそうです。 収集ごみ量原単位を定める必要は、市としてはあまり意味がないそうです。収集ごみ量を定めるということは、集団回収等を増やしましょうと言う話になります。
委員	市の立場からすれば、どれくらいごみを集めるかが問題ですから、その量を知ることは重要と考えます。
会長	収集ごみ量は、あまり使用しないようです。
委員	総量が問題は分かります、原単位は人口で割った数値です。総量が減る

	<p>ためには、集める量も必要だと考えます。</p>
事務局	<p>他の団体との比較では、ごみ総量及び排出物原単位等で比較しておりません。</p>
会長	<p>収集ごみ量も、総量を減らすためには、人口増加率よりも厳しい設定をしなければなりません。</p>
委員	<p>以前の数値をクリアーできれば、良いと考えます。出来ないのであれば、数値を変える必要があります。</p>
会長	<p>何を基に、良い悪いを判断するかがありますが、先ほどの、委員からのご提案との関係で出てきた、組合からの配分量との関係で言いますと、リサイクル率を今よりも厳しく設定し、それ以外は今の目標値を使うと言うことですね。</p>
委員	<p>そのために、何をするかです。</p>
会長	<p>次回、詳細に議論できれば。今、委員がおっしゃった数値をどうやって担保するかその議論をしたいと思います。</p> <p>排出物原単位は、今のトレンドを見ますとけっして無理な数値ではない気がします。</p>
委員	<p>最終処分場の問題を考えれば、ごみ減量は重要課題です。できるだけ、850gに近づける必要があると思います。分別がまだ徹底していませんから、もっと徹底するのを感じます。また、生ごみには多くの水分が含まれていますので、水分を切ることも重要かと考えます。</p>
会長	<p>目標値を考える中で、事業者に関係する数値があります。事業所からおいでいただいている、委員にお伺いしたいのですが。</p>
委員	<p>私どもの事業所は、前年を割ることを常に目標としております。まだ、1年ほどしか経過していませんが、12月度を比べますと85%程度の排出量になっています。開店景気と言うのがありまして、各店舗は前年は多めに商品を仕入れた傾向がありました。現状は、前年を大きく下回っています。</p>

会 長	現実的な排出量に、安定していった場合どの程度になるのでしょうか。
委 員	会社での目標は、短期目標として2009年度までに、ごみ総量で2004年度の3%減。長期目標として20012年度までに、リサイクル率を80%まで持っていくことです。
会 長	<p>ここまで、かなり時間を使ってしまいました。今後の議論の仕方としては、現状のトレンドを延長したものを出示していただき、次回にもう一度数値の議論を行いたいと思います。</p> <p>それで、今の目標値をどう動かすか考えたいのです。</p> <p>今日たまたま出ました、リサイクル率を40%にし、最終処分量を1700t程度にすると言うのが、根拠が出てくると思います。リサイクル率を上げていくことによって、発生抑制施策により最終処分量を減少させる、これは、かなり合理的な数値だと考えられます。</p> <p>この考えを基に、トレンドを延長した数値を確認し、数値の議論を行いたいと思います。</p> <p>不燃ごみの減少の原因を確認していただき、答申の形になった文面を出していただきたいと思います。</p> <p>数値を出し、その実現のために何を行っていくのか考えたいと思います。</p>
事務局	広報の原稿につきまして、このように出させていただきますので、ご了解をお願いいたします。
会 長	<p>数値は、確定していませんので、この形で了解いたします。</p> <p>次回会議は、3月4日（火）とした。</p>

会議の公開・ 非公開の別	公開 一部公開 非公開 一部公開又は非公開とした理由  ( )	傍聴者： _____ 1人
-----------------	--	---------------

会議録の開示・ 非開示の別	開示 一部開示（根拠法令等： _____） 非開示（根拠法令等： _____）
------------------	---

庶務担当課	生活環境部	環境課（内線： 292）
-------	-------	--------------

（日本工業規格 A 列 4 番）